

# ヒノキコンテナ苗は”サイズより根鉢形成重視”で！

岐阜県森林研究所 森林環境部 茂木靖和

## はじめに

岐阜県のヒノキコンテナ苗の規格は、樹高25cm以上でかつ根鉢形成有です。この規格は2015年に設定されて以降、変更されていません。この規格になった背景とその後変更なく継続されたことについて、導入当初のコンテナ苗の品質と当所の試験結果から説明します。また、将来実用化を目指す根鉢を小型化した1年生ヒノキ実生苗の開発経過と課題を紹介します。

## 岐阜県のヒノキコンテナ苗規格の設定・継続

岐阜県では2010年代の前半からコンテナ苗の植栽が始まりました。その当時のコンテナ苗は容器から苗を抜き取ると根鉢が崩れるものが多く、植栽後の枯死が目立ちました。コンテナ苗の品質向上には、根鉢形成できていること（根鉢形成有）を最優先すべきと感じました。2014年5月に林野庁が設定した山林用主要苗木標準規格（コンテナ苗）においても、根鉢について「根が培地に張りめぐらされ、根鉢が容易に崩れない状態が保たれており、根が垂直方向に発達し根巻していないもの」として明記されたことから、根鉢形成有が規格に採用されました。

また、上記の規格によると、苗サイズの規格が最も小さい5号苗では、苗長30cm上、根元径3.5mmに設定されたことから、この条件が規格に採用されそうになりました。しかし、当所の試験で植栽時にこの条件に達しなかった苗の成長が悪くなかったこと、2014年より前に設定されたコンテナ苗規格の暫定版で規格外の苗を減らすために設定された6号苗の注意書きに「苗長25cm以上が望ましい」という記述があったことから、樹高25cm以上が規格に採用されました。

その後、当所で行ったコンテナ苗の植栽試験においても植栽時のサイズが小さい苗の成長が悪くなかったこと、現場からも規格の変更要請がなかったことから、岐阜県のヒノキコンテナ苗規格は、設定時のまま継続されています。

## 今後の展開（根鉢を小型化した1年生ヒノキ実生苗の開発）

運搬および育苗資材のコスト低減、育苗期間の短縮を図るため、根鉢容量28cc苗（図）を溶出日数700日の緩効性肥料の元肥量（100、200、400、800g/10L）を変えて試作し、現地植栽しました。その結果、元肥量800g/10Lの条件では、根鉢形成率が75%と高く、下刈り時（植栽約4ヶ月後）には20cm以上の苗伸長が期待できました。今後、この苗の育苗、植栽の実績を積み重ねていき、今回と同様の結果が得られるかを検証していきます。そこがクリアできれば、苗の樹高規格を25cmから15cmに下げて、この苗の実用化に繋がりたいと考えています。



根鉢容量：150cc



28cc

図 根鉢を小型化したヒノキ苗

## \*溶出日数

25℃、畑状態の土壌において80%以上の肥料が無機化する日数